北ブロックミニ研修　家康公が生まれた岡崎の地へ

秋晴れの10月16日（月）、総勢23名で岡崎の大河ドラマ館と家康公ゆかりの周辺各地をバスで回る北ブロックのミニ研修を実施しました。その中で現地説明・案内をしていただいた合計６名のガイドの方々について主に報告をします。まず、お世話になった現地ガイドを４つに分類してみました。

①現地施設の方…家康公が戦勝祈願をし、家光公が整備した境内に江戸時代の建物が数多く残る伊賀八幡宮では幸運にも宮司様から説明を聞くことができました。聖徳太子建立と伝わる三河一の古刹真福寺では昼食の竹膳料理をいただいた後、住職様から寺院の説明とご祈祷をしていただきました。本堂の中にある井戸の水がご神体というのは大変珍しいと思いました。

兜と陣羽織を着ての集合写真（大樹寺にて）

②継続的に活動しているボランティアガイド組織の方…平成９年から活動を開始した「おかざき観光ガイドの会」の方に岡崎城および徳川家菩提寺の大樹寺の両方を案内していただきました。岡崎城では浜松城の「鉢巻石垣」とは逆の「腰巻石垣」を見ることができました。

③商業目的でガイド案内をする方…大樹寺にバスが到着したとき最初に出迎えてくれたのは、観光客の写真を撮って販売する写真屋さんでした。明るく元気よく挨拶され、簡潔に境内を説明しながら写真撮影場まで誘導し、備品の兜や陣羽織を着させて集合写真を撮り、希望者に１枚1,000円（ボールペン付）で販売されました。

④期間限定のボランティアガイド組織…三河一向一揆の拠点の一つ本證寺では、大河ドラマに合わせて発足した「あんじょう家康ガイド」の２名の方に案内していただきました。約９か月間の研修、試験を経て初めてガイドをするという方がほとんどとのことでした。

現地で聞く案内の正確性や詳しさという点では、①が最も満足できました。ただし説明できる方の数は限られると思います。対応の安定感と説明の上手さ、連絡の取りやすさという点では、②の継続的なガイド組織が一番だと思います。事前の打ち合わせを通してこちらの希望に沿って時間も内容もきっちりまとめていただけました。案内中は突然の質問にも即座に答えてくださいました。

お客様の気持ちをつかむ巧みな話術という点では、③の写真屋さんにも学ぶべき点は多くありました。参加者の４割がまんまと術中にはまって写真を購入してしまいました（私も買いました！）。

浜松観光ボランティアガイドの会入会２年目の私は、④のガイドの皆さんと同じキャリアということになると思いますが、同じとは思えないほど安城の皆さんのガイドぶりは心に響くものでありました。説明に熱が入り過ぎたせいか、予定の時間をかなりオーバーとはなってしまいましたが、一生懸命に丁寧に、こちらからの質問にもしっかり答えていただきました。

今回の研修では家康公の父、広忠公のお墓のある松應寺だけが、現地説明がなく自由見学でした。自分のペースで境内の見学はできましたが、お寺周辺の旧花街だったというレトロな町並み(松應寺横丁)は詳しい説明もなく、物足りなく感じました。

旅行の最後には車内で一人ずつ感想を発表しましたが、「ガイドはいないより、いたほうがいい」と感じたという方が多かったです。今回の研修は様々なタイプの現地ガイドからの案内説明を受けることができ、またガイドの役割や存在価値を再認識することで、大変勉強になりました。今後のガイド活動に活かしていきたいと思います。

広報部　都築厚好（北ブロック）

中ブロックミニ研修　金原明善会館を訪ねて

９月28日（木）の暑の中、天竜川近くの金原明善記念館に集合しました。参加者は当ブロック16名と東ブロック１名です。２００年を超えている生家を改修して記念館にしました。明善は１８３２年の生まれで１９２３年に亡くなっています。この明治期の実業家である金原明善は、度々氾濫する天竜川に困っていました。そこで暴れ天竜の川筋をまっすぐにするという遠大な事業に私財を投じたのです。そのおかげで天竜川は鎮まるという治水事業をし、さらに山の植林で治山事業という功績も残しました。酒造り、運送業、金融業、北海道開拓などと多岐にわたった事業家でもあり、犯罪者の更生支援に尽力し保護司制度の基礎を築くこともしております。

館長の説明を聞く

ビデオ視聴後、玄孫(やしゃご)である金原利幸館長が金原家の成り立ちや立派な生家の造り、明善翁の業績など、子孫ゆえに知る逸話も交えながら分かりやすく話してくださいました。その中でも明治天皇に拝謁したこと、渋沢栄一との交流があったということは驚きでした。

子ども向け漫画冊子

９２才まで生きた明善翁が亡くなってちょうど１００年に当たる今年、それに合わせて館内には大々的に天竜川の改修の経過を記した平面図が展示してありました。これを見ると明善の考えた事業規模の大きさが分かります。子ども向け漫画冊子も制作されました。

近年の異常気象に対して防災意識が高まっている時ゆえ『防災　今こそ明善の教え』と明善の功績を振り返る機運が起きていると地元紙は報じています。

本日は郷土の偉人の立派な功績のお陰で今があることを心に留め帰途につきました。皆さんも是非一度足をお運びください。

広報部　柳本幸子（中ブロック）

西ブロックミニ研修　三方ヶ原古戦場巡り

道路脇にある隠れ里

西ブロックは、財政難。それでも「お金をかけずミニ研修を」ということで、「三方ヶ原合戦場研修」となりました。６月27日に三方ヶ原合戦の四つの登り坂と丸山展望台を巡ったので、今回はその続きです。

10月24日（火）午前に西ブロック定例会を終え、三方原神社に再集合。氏子総代の許可を得て車を置かせていただき、社務所前の縁台で各々が調達した昼食をとりました。

境内で気賀林の碑や四勇士の碑などを見学。東ブロックの長松谷さん戸塚さんも合流し４台の車に分乗して出発しました。

根洗い松から祝田の坂は歴史家高柳光寿氏説の三方ヶ原合戦場。運転手は坂を歩かず蜂前神社で徒歩組を待ちます。そこから妙功庵観音堂の前を通過し、郷土史家鈴木千代松氏が武田軍本陣とみる東大山二ノ平おんころ様跡地のジャガイモ畑を見、パチンコ店の屋上へと移動しました。この辺りが今回の研修の一つ目の目玉ですが「何もないね」としか感想が出ない…それがスゴイことなのだ、ということで権七の精鎮塚から轡渕（くつわぶち）にかけては死体の山や、馬の死骸を想像しつつ、轡橋を通って隠れ里へ。ここは説明看板はあるものの浜松博物館の家康伝承調査の冊子からも漏れていて、ちょっと分かりにくい所。二つ目の目玉です。花川小南の交差点の東100mほどの道路脇（南側）で交通量が多いので、行くときは注意してくださいね。家康の護衛をしていた槍の使い手河合藤五郎のゆかりの地です。家康伝承調査冊子でもこの辺りは「合戦場」「沢渡の伝説」「馬葬地」「三ツ塚」など凄惨な戦場の様子が紹介されています。

本乗寺ご住職のお話

精鎮塚が移設された本乗寺の本堂では、徳川・武田両戦没者の位牌に読経付きでご焼香をさせていただけました。研修の完遂を感謝し、心ばかりの浄財を納めさせていただきました。

西ブロック　前原福子

会員の交流広場

盆踊りの楽しさ知った『えんの市』

浜松盆部

１年前の夏、コロナ３年目。全国各地で「夏祭り」が復活し始める中、浜松では自粛続きで「祭り」のやり方を忘れてしまった自治体もありました。当時、着物を着て遊びに行く場を探していたわたしは、浜松で「盆踊り」をしている団体に出会います。
「浜松盆部」のんきで朗らかをモットーに「盆踊り」で笑顔で新しい輪をつないでいく彼女らは、自らの祭りを『えんの市』と呼び、生バンドで盆踊りを踊っていました。
コロナ禍でありながら、だれも顔を隠すことなく笑顔で向かい合い、手をつないで笑い合っていました。コロナ前は当たり前だっただろう光景を見たとき、「あれ、これ当たり前だった？」と、ふと疑問が湧き上がりました。
『人と手をつないで輪になって踊るなんて学生以来かもしれない』不思議な高揚感に駆られ、そこから「盆踊り」にはまっていきました。
ある時は竹林で、ある時はお寺で、ある時は街中で、ある時はお店で「３人よれば盆踊る」。
円になって踊るスペースさえあれば、彼女ら、彼らは踊り、いつしか自らの鳴り物部隊を結成し、大きな円を描いて踊っていました。
昨年の「えんの市」は浴衣で参加できるようにと、着物仲間と着付けブースをやらせていただきました。着付けが終わった後は盆踊りの円の中に入って、ずっと踊ることができました。

遠州かみしばい楽座

今年の「えんの市」は子どもたちが遊べるようにと紙芝居と子ども向けワークショップで参加しました。盆踊りに飽きた子どもたちで賑わい、思った以上にワークショップに時間がとられ、今年は踊ることができませんでした。そうして改めて、外側から円に入らず見てみると「盆踊り」を踊っている人たちだけが「円」になっているわけではないことに気づきます。
外側から見ている人たちも実は「円」になって露店を見て歩き、踊っている人の横を眺めながら「円」になるように立っていました。
人々が向かい合い、誰かしらの笑顔を眺めていました。踊りを知らなくともなんとなく手足を動かして参加している人もいました。
『盆踊りは自由だ。』そんな自由さに引かれ、また来年もこの光景を眺めているのでしょう。

中ブロック　久保田絢子

会員の交流広場

日本の最南端　はいむるぶし

沖縄の離島・小浜島にある極上のリゾートホテル「はいむるぶし（南十字星）」へ行ってきた。中部国際空港（セントレア）から飛行機で石垣島へ、フェリーへ乗り継ぎ約３０分、人口約４５０人の小さな島だ。

コバルトブルーのビーチ

さわやかな風が吹き抜けるサトウキビ畑、赤煉瓦の屋根の上にはシーサー。ゆっくりと流れる時間に身をゆだねると日ごろのストレス？？の面影から解放されていくのがよく分かる。
お巡りさん一人、お医者さん一人、コンビニ一軒もなしと、本当にのんびりでき、非日常の空間がそこにあった。
またホテルで演奏している土田きくおさんのロビーコンサートもまたすばらしく、以前掛川市葛城二の丸でも聴いたことがあるけれど小浜島の島にふさわしく美しく透き通った歌声だった。
リゾートホテル「はいむるぶし」はヤマハを世界的な企業に成長させ自由とロマンに満ちあふれた川上源一氏（ヤマハの元社長）の遺作だ。今では三井不動産の所有であるが面影は残されていて、よくも４０年以上も前にこのリゾート地開発の発想が思い浮かんだのがすばらしい。
「どこに開発のヒントがある？」と社長の身近にいた友人に聞くと「海外のリゾート地開発を参考にしたらしい」と答えた。

西ブロック　沼田 司

会員の交流広場

天方城(静岡県森町向天方)と天方通綱

天方城址展望台

天竜浜名湖鉄道の戸綿駅で下車し、約２時間かけて、標高 240m の天方城へ登城。ついでに麓にある天方一族の菩提寺である松巌山蔵雲院も参拝しました。

天方城の築城は不明ですが、応永年間（1394 年～1428 年）ごろに、三倉川の西俣に居城を構えていた山内氏によって、築城されたと伝わっています。天方氏はもともと飯田の荘の地頭であった首藤山内氏から分家した山内豊後守通秀がこの地に住み、天方氏を称したのが最初とされています。戦国時代には天方氏が支配し、城主天方山城守通興の時に現在の場所に堅牢な城を築きました。永禄３年（1560 年）桶狭間合戦で今川義元の敗死により、遠江の基盤は弱体化し、天方城も家康・信玄・氏真による三つ巴の争いに巻き込まれていきます。そして、永禄１２年（1569 年）、徳川家康による遠江侵攻での天方城攻めでは、天方通興が今川方の勇将として、徳川方の榊原康政、天野康景、大久保忠隣と一戦を交えましたが、降伏して徳川方の支配下に入りました。その後、元亀３年（1572 年）９月下旬には、武田信玄が二万五千の大軍を率いて遠江に侵攻。

多田羅城、飯田城を攻略して、天方城に迫ってきたとき、天方通興は「風林火山」の軍旗を見て恐れをなし、武田勢と一戦も交えることなく城を出て、徳川方に身を寄せました。信玄は天方城を簡単に奪取して、久野弾正に守らせました。元亀４年（1573 年）４月、信玄が亡くなってから、家康は武田方の手に落ちた天方城を奪還するために、平岩親吉、大久保忠隣、渡辺政綱、渡辺守綱を送り込み、久野弾正を追い出し、徳川氏の配下となっていた天方通興を城主としました。

天正７年（1579 年）９月１５日、通興の子通綱は、家康の長男信康が二俣城で切腹したときに介錯を務めました※1)が、君主の長男の首を落したという自責の念にかられ、高野山にのぼり、仏門に入りました。10 年後に通綱は還俗して、家康の次男(信康の弟)福井城主結城秀康（越前松平家藩祖）に千五百石で召し抱えられ、福井城下で亡くなりました（享年 73 歳）。その後、天方家は明治まで越前松平家に仕えました。なお、天方城は通興の死後、まもなく廃城となりました。

※1)通綱は信康自刃の検使役でしたが、介錯を仰せつかった服部正成(半蔵)ができなかったため、通綱がやむなく介錯したといわれています。

東ブロック　長松谷晃徳

１０月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの３カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜 松 城≫

28 日	土	静岡市建築士学会	46 名

≪出前講座≫

16 日	月	**浜松市立花川小学校**	6 名
17，24	火	**浜松市立東小学校**	116 名

≪犀ヶ崖資料館≫

1 日	日	袋井市豊沢地区まちづくり協議会	29 名
6 日	金	**浜松市立積志小学校**	84 名
14 日	土	鳥居会	9 名
20 日	金	**浜松市立犬居小学校**	6 名
29 日	日	川崎市退職校長会	20 名

≪浜松まつり会館≫

10 日	火	**浜松市立北浜東小学校**	47 名
21 日	土	南区役所＆まつり会館オータムフェスタ	559 名
22 日	日	OIA 岡崎市国際交流協会	182 名
27 日	金	明治大付属中野中学校	48 名

はまま つ案内人会報　256号
編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946　浜松市中区元城町 100-2　(浜松城内)
ＴＥＬ　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　http://www.hama-svg.jp/
はまま つ案内人　検索

浜松
家康公ゆかりの地